



那賀町立相生小学校

あいおい

令和6年度学校便り

NO.32

2025.1発行

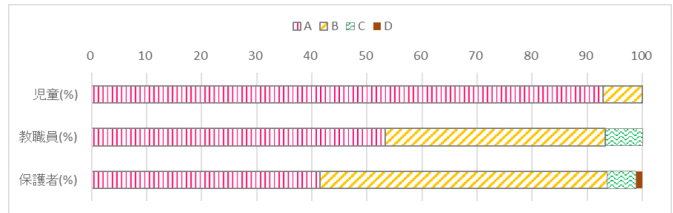
発行責任者

谷 多美子

いじめのない学校へ

保護者アンケート6	学校は、命の大切さを教え、いじめのない学級・学校を目指し取り組んでいる。	教職員自己評価6 いじめ根絶	人権を尊重した言動で範を示し、いじめの根絶に向けた教育、仲間づくり、いじめの早期発見、対応に努めた。	児童アンケート6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
-----------	--------------------------------------	-------------------	--	----------	----------------------------

6	A	B	C	D	平均値	前年度との差	教職員自己評価との差
児童(%)	92.8	7.2	0.0	0.0	4.1	0.2	0.6
教職員(%)	53.3	40.0	6.7	0.0	3.5	-0.2	
保護者(%)	41.5	52.1	5.3	1.1	3.3	±0	-0.2



12月いじめ一斉学習後の振り返りでは、「違いを認められない」ことがいじめにつながるということを書いている児童が多くいました。規律や成績、記録など学校特有の風土が一人一人の違いや個性を置き去りにしていないか教職員が自らの言動を点検することが求められます。多様な意見が尊重され、誰もが自分らしくいられるような学校づくりにこれまで以上に取り組み、児童、教職員、保護者すべてが「Aそう思う・当てはまる」が100%になる日を目指します。(令和6年度学校評価結果より)

スマイルタイム(人権ボランティア・いじめ防止委員会)1月15日



劇で「いじり」の場面を提示し考え、今日の集会で話し合うことを提案しました。



「いじりもいじめじゃないか」「いやちょっと違う」率直な意見が述べられていました。



6年生がスマイル班を代表してみんなの意見をまとめて発表しました。

「いじりといじめは違うのか。」「同じだ。」と答える人は、「される(被害者)側」に立って考えているからで、いっぽう「違う。」と答える人はひやかしかからかい、あだなでよぶなどの行為は、そのときの「のり」や気分など「する(加害者)側」の理屈です。相生小学校いじめ防止委員会が「テレビの芸人は笑いをとってお金をもらっている。」いじりはいじめであり相手の気持ちに寄り添える仲間であってほしいという願いが全校児童にメッセージとしておくられました。最後は「みんなが楽しく笑って過ごせる相生小学校にしましょう。」という言葉で締めくくられました。

代表委員会(校舎内での防寒着の着用について)1月16日



一年で最も寒い季節となりました。児童より特別教室への移動時など寒さを感じることもあるので、防寒着の着用についてきまりを見直してほしいと提案がありました。授業や学校生活に支障がないよう様々な角度から考え意見が出ていました。健康・安全・快適の視点で自分の衣服を選択したり調節したりする力にもつながると思います。